

放繋牧草地

刈取の手間が省け、生産費の低減を計り、放牧による家畜の適度の運動と日光浴ができ、理想的な草の利用法です。



放繋牧地用の優良品種

○……適又は強い。△……充分利用できる。×……生育不良。

種 類	優 良 品 種	主 な 特 性	適 地				
			寒冷地	暖 地	ヤセ地	乾 燥	湿 潤
オーチャードグラス	マ ス ハ ー デ イ	極晩生で再生力旺盛。不良条件にも比較的耐える。放牧タイプ。	○	△	○	○	△
〃	フ イ ロ ッ ク ス	夏～秋の生育再生良い。株の形成が少なく、草質もやわらかい。放牧タイプ。	○	△	△	○	△
〃	ポ ト マ ッ ク	中生種。多葉で再生力も旺盛である。病気に強く、暑さにも比較的強い。採草用にも利用される。	○	○	○	○	△
チ モ シ ー	オ ム ニ ア	再生良く、年間平均した生産をあげる。永続性もあり、病気にも強い。放牧タイプ。	○	×	△	×	○
メドウフェスク	レ ト ー	春の生育早く、再生力も旺盛。出穂茎数多く、多収。採草用にも良い	○	×	△	△	○
ペレニアルライグラス	マ ソ モ ス	春より生育旺盛、分けつも多く、葉茎は大型で極めて多収。放牧専用。	○	○	△	△	△
イタリアンライグラス	マ ソ モ ス A	1年生(暖地越年)なので放繋牧地の生産を高めるための毎年追播。春まき出穂せず。	○	○	△	△	○
〃	〃 B	生育早く、寒暖地共春まきに適す。1年生なので毎年追播。	○	○	△	△	○
白 ク ロ ー バ	カリフォルニアアラデノ	葉が大型で多収、再生力抜群で、ほふく茎の伸長も良い。	○	○	×	×	○
〃	ニュージーランド	葉はやや小型だが、良く密生し、再生も良い。利用年限長く、強健種。	○	○	○	○	○
ル ー サ ン	ライゾーマ	ほふく型、寒さ暑さに強く、長年利用できる。	○	○	×	○	×
バーツフットトレフォイル	エンパイア	非常に強健なまめ科。多年生のため、不良条件下の放牧用に利用。	○	○	○	○	△
赤 ク ロ ー バ	各 品 種	普通採草用ですが、生産力を高めるため一部利用される。	○	△	△	△	△
H・ワンライグラス		イタリアンライとペレニアルの中間型、2～3年生で茎が細く、分けつ多い。採草用にも良い	○	○	△	△	○
トールフェスク	ケンタッキーフエスク	不良条件に対して良く耐える。耐寒耐暑性大で、生生存年限も長い。あらゆる利用に適す。	○	○	○	○	○
ケンタッキープルーグラス		地下茎で繁茂し、踏みつけに強い。永年放牧地相。	○	×	×	○	△
バーミュダーグラス		暑さに強く、地下茎地上茎で繁茂する。放牧タイプ春夏まき。	×	○	△	○	△
バヒヤグラス		暑さに強く、地上ほふく茎で繁茂する。放牧タイプ春夏まき。	×	○	△	○	△
レッドトップ		非常に強健ないね科多年生のため、不良条件下の放牧用に利用。	○	○	○	○	○

放 繋 牧 地 の 混 播 例

(10アール当り)

北海道・東北地方北部	東北地方南部・北陸地方	関 東 地 方
オーチャードグラス 1.5 ペレニアルライグラス・マンモス 0.5 メドウフェスク 1.0 ラデノクローバ 0.5	オーチャードグラス 1.5 ペレニアルライグラス・マンモス 0.5 H・ワンライグラス 1.0 ラデノクローバ 0.3 赤クローバ 0.3	オーチャードグラス 1.0 ペレニアルライグラス・マンモス 0.3 H・ワンライグラス 1.0 イタリアンライ・マンモスA 0.3 ラデノクローバ 0.5
東海・近畿地方	九 州 地 方	<ul style="list-style-type: none"> ●出来るだけ優良品種を用い、イネ科とマメ科のバランスもとれるように。 ●ヤセ地の場合：ラデノクローバの代りに白クローバ、ニュージランドその他パープフットレフオイル、ケンタッキー31フェスク、レッドトップ（湿潤地）を入れる。 ●肥沃地で酸性でない所にはルーサンのライゾーマも良い。 ●播種量合計は3～5キロ ●実際、貴地に適した草種は最寄の指導員とご相談下さい。
オーチャードグラス 1.0 ペレニアルライグラス・マンモス 0.3 バーミューダグラス 1.0 ラデノクローバ 0.5 イタリアンライ・マンモスA 0.3	オーチャードグラス 1.0 バーミューダグラス 0.5 バヒヤグラス 1.0 ラデノクローバ 0.5 イタリアンライ・マンモスA 0.3	

放繋牧地利用上のポイント

- 草地を区分し、1区の放牧日数を2～5日。
- 草丈15～30cm以内で利用、30cm以上になったら刈取る利用。
- 過放牧や秋遅くまでの放牧はさける。
- 雑草類は早目に刈取るか抜きとる。

放繋牧地の栽培基準

(数量は10アール当り)

地 帯	播種期	播種量	播種法	施 肥 量					収 か く		摘 要		
				基 肥		追 肥			利用時期	収 量			
				堆肥	石 灰	化学肥料(成分量)						時 期	肥料と量
キロ	キロ	N	P ₂ O ₅	K ₂ O		キロ							
東北地方 (手県の例)	8/中～ 9/下	※	散 播	1,600	—	7～10	10～15	6～8		4/下～ 11/下	トシ	4～6	※ 赤クローバ 0.3～0.5 ラデノクローバ 0.2～0.3(又はラデノ) イタリアンライ 0.3～0.4 オーチャード 1.5～1.8 ペレニアル 0.8～1.0 トルフェスク 0.5～0.7
関東地方 (埼玉県の例)	9/上～ 9/下	※	散 播	2,000 ～ 3,000	200～ 300	5	10	5	2年目 以降は 春秋2 回	N………4 P ₂ O ₅ ……6 K ₂ O……6	4/下～ 11/上	3～5	※ 赤クローバ 0.3 ラデノクローバ 0.3 オーチャード 0.5 ペレニアル 0.5 ケンタッキー31 0.5 レッドトップ 0.5
四国地方 (高知県の例)	9/上～ 10/中	※	散 播	2,000	150	10	12	12	利用毎	N………15 K ₂ O……8	3/下～ 11/上	4～7	※ クローバ 0.3 オーチャード 1.5 ケンタッキー31 1.5 採草兼用

大・中規模草地造成に使用される《雪印のたね》

大・中規模草地は、不良条件下で機械力や踏耕法による粗放造成が主体となり、耕地内の草地と異って、その維持管理も集約的に行えなく、省力化、低コストが要求される特殊性をもっており、使用される種子も、永続性があり、それぞれの土壌や気候に適するもの、利用別に適するものなどの品種を選定しなければなりません。

雪印では、草地造成用の草種、品種や混播方法など、長年に亘って研究、調査を続けており、各地の草地造成に《雪印のたね》が多く使用されております。是非ご用命願います。